

## 2020年8月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

500hPa 高度をみると、ヨーロッパ、北極付近～西・中央シベリア、日本付近、カナダ北部で正偏差、カスピ海付近、東シベリア、アリューシャン近海～アラスカ湾で負偏差となった。200hPa 風速をみると、亜熱帯ジェット気流はユーラシア大陸上で平年より強かった。日本付近の偏西風は平年の位置と比べて北寄りを流れた。海面気圧をみると、北極付近～中央・東シベリアで正偏差、中国、アリューシャン近海～アラスカ南部で負偏差となった。太平洋高気圧は日本付近～日本の南海上への張り出しが平年より強かった。850hPa 気温をみると、ヨーロッパ、北極付近～西・中央シベリア、中国東部～日本付近、北米南西部・北部で高温偏差、カスピ海付近、東シベリアで低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、西アフリカ～アラビア海、南シナ海北部付近で活発、インド洋東部、太平洋赤道域の西部、北太平洋熱帯域の西部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、インドネシア付近～南米～インド洋を東進した。対流圏上層では、太平洋東部～アフリカ～インド洋西部の広い範囲で南北半球対の高気圧性循環偏差、インドネシア付近で南北半球対の低気圧性循環偏差となった。対流圏下層では、太平洋西部付近で南北半球対の高気圧性循環偏差となった。海面気圧は、赤道域では、太平洋の中・東部で正偏差、その他の領域で負偏差となっ

た。南方振動指数は+1.3だった。

### 世界の天候

世界の月平均気温偏差は+0.41℃(速報値)で、1891年の統計開始以降、8月として4番目に高い値となった。8月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.70℃/100年(速報値)である。

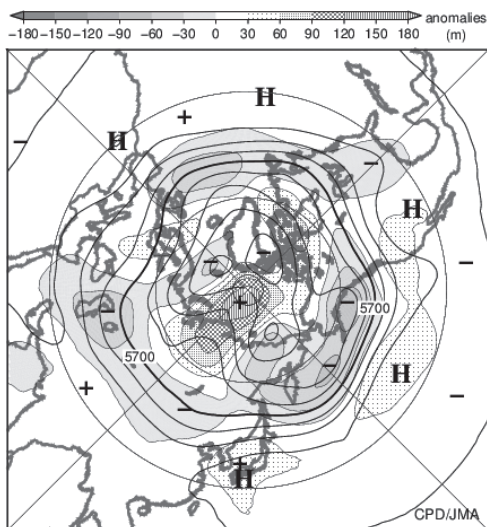
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 西シベリア北部～中央シベリア南部、東日本～中国東部、東南アジア中部～南アジア南部、パキスタン南部～サウジアラビア東部、ウクライナ西部～英国南部、米国西部～メキシコ北部、南米北部、ミクロネシア中部、オーストラリア北部で異常高温、南極大陸大西洋沿岸で異常低温となった。
- 東アジア北部及びその周辺、パキスタン及びその周辺、ヨーロッパ南部、西アフリカ北部及びその周辺、米国北東部～中部で異常多雨、西日本太平洋側及びその周辺、米国北部、メキシコ北部で異常少雨となった。

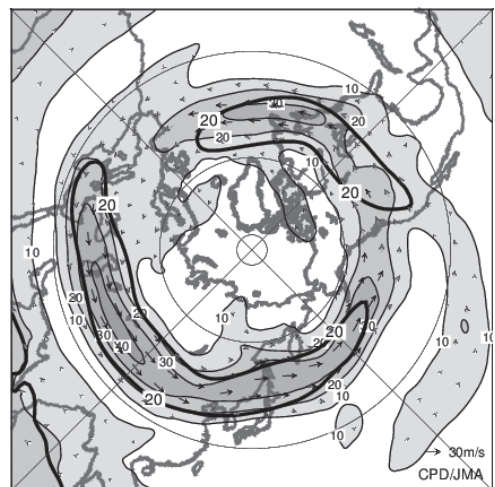
(気象庁 大気海洋部 気候情報課)

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

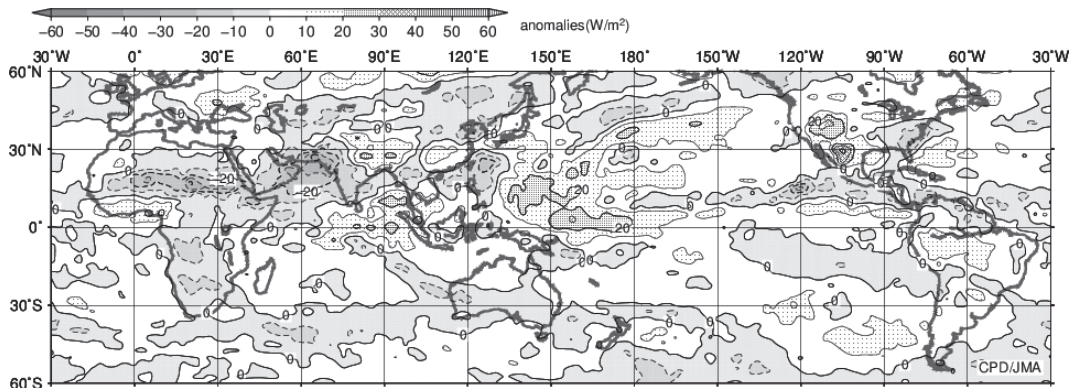
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2020年8月の北半球月平均500hPa 高度及び  
 平年偏差  
 等値線間隔は60m。陰影は平年偏差。平年値は  
 1981～2010年の平均値。

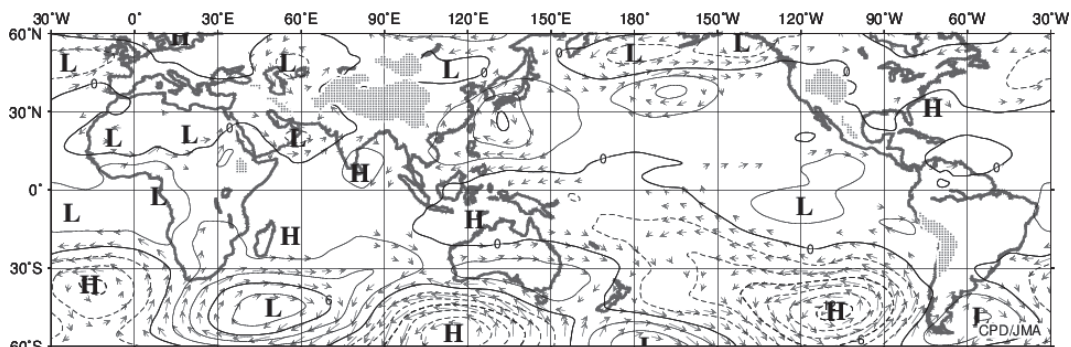


2020年8月の北半球月平均200hPa 風速及び  
 風ベクトル  
 等値線間隔は10m/s。太実線は平年の風速で等値  
 線間隔は20m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



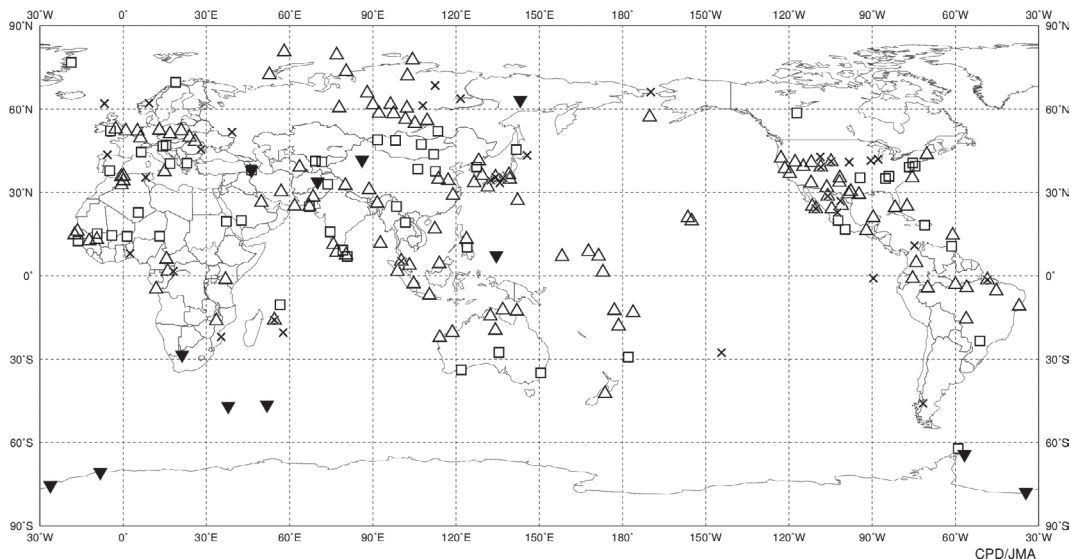
2020年8月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は $10\text{W/m}^2$ で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2020年8月の月平均850hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6\text{m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2020年8月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。